

東南アジアで 特許ドラフティングセミナーに 参加してみた（その1）

筆者は、国際弁理士連盟（FICPI）が主催する東南アジア特許ドラフティングコース（以下「SEAD（South East Asia Drafting）」）に参加しました。本稿では、複数回に分けて、筆者の体験談と共に、SEADの概要を紹介致します。

1. 概要

SEADは、東南アジアの若手実務家に対して、特許のドラフティング技術を教えることを目的に開催されているセミナーです。東南アジアをはじめとする新興国の特許実務は、欧米等の先進国のアウトソーシングや翻訳業務が主となっています。通常、ドラフティングの経験を積む機会は多くありません。講師によれば、このような新興国の現状を変えることが真の目的だそうです。

2. 参加者

参加者のバックグラウンドは多様です。特許事務所に勤務している特許技術者が多数を占める一方、審査官、エンジニアといった、普段はドラフティングの機会のない人も参加しています。国籍も様々。2014年は、開催地マレーシアを筆頭に、東南アジア各国、インドからの参加もありました。日本人は私を含めて2名。参加者の半数以上が女性だったこ

とも印象的でした。

3. 講師

講師はFICPIの委員（主に、各国の特許事務所に所属する弁理士）が担当します。2014年は、アメリカ、イギリス、ドイツ、カナダ、オーストラリアの弁理士が、輪番で各講義を担当していました。

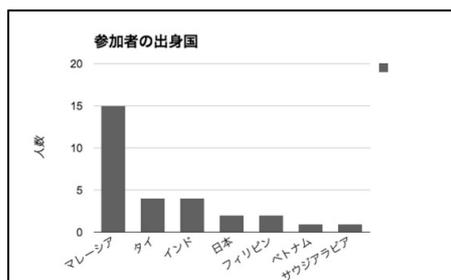
4. 開催地

以前は香港で開催されたこともあったようですが、2014年はマレーシアの首都クアラルンプールで開催されました。なお、2015年もクアラルンプールで開催されます。

会場は、クアラルンプールの郊外にある「マレーシアプトラ大学（以下「UPM（Universiti Putra Malaysia）」）」。

講師や大半の参加者は、会場近くのホテルから通っていました。ホテルからは、無料の送迎バスが出ていました。

ちなみに、私は、ホテルではなく、勤務先が借りているアパートから通いました。アパートはクアラルンプールの都心部にあったので、会場の最寄り駅まで電車で移動し、最寄り駅から会場までタクシーで移動しました。一般に、マレーシアの大学はキャンパスが広大なため、大学名だけでは目的地に辿り着け



会場

ません。毎日異なるタクシードライバーに会場への道順を英語で伝えることが私の朝一番の課題でした。

5. スケジュール

SEADは、春（2014年は5月）に開催されるセグメント1と、秋（2014年は11月）に開催されるセグメント2に分かれています。セグメント1とセグメント2の間には、宿題もあります。

各セグメントは、5日間のセミナーで構成されています。毎日9:00～17:00までみっちり授業が入っています。参加者は、ほぼ全員が仕事を休んで参加していたと思います（大半は、所属組織による研修の一環だと思いますが）。

1日のタイムテーブルは以下のとおりです。

タイムテーブル	
9:00～10:00	講義1
10:00～10:15	コーヒーブレイク
10:15～12:00	講義2
12:00～13:00	ランチ
13:00～17:00	ワークショップ

講義1および2は、ドラフティングに関する基礎知識を学ぶ座学です。講師が自ら用意したレジュメに沿って行われます。講義は英語で行われます。

ランチでは、マレーシア料理が振る舞われました。マレーシア料理といっても、日本人の私にとってはどれもカレー。それが毎日続きました。最終日にもなるとさすがに慣れたというか、飽きたというか…。

そして、SEADの目玉と言えるのが午後のワークショップ。実物サンプルを見ながら、5名程度のグループでクレームを作成します。ワークショップは、時間無制限。言語の壁もあって、私にとって最もハードな時間になりました。余談ですが、私のグループは、私以外は全員マレーシア人。時間の経過と共

に、お互い早口になって、最後は彼らの話す言葉が英語なのかマレー語なのか分からなくなる程に白熱しました。



ランチで振る舞われたマレーシア料理

6. 筆者の感想

SEADの魅力は、〈特許のドラフティング〉という1つのテーマについて、様々な国籍の実務家と議論できる点にあると言えます。講師（欧米の弁理士）がどのようにドラフティングを教えているか、そして、新興国の特許技術者が発明をどのように理解しようとするか、といったことを垣間見ることができました。コレポンやメールでは絶対に得られない貴重な経験をしました。

2015年のSEADのエントリーの受付も既に始まっています。本稿を読んでご興味を持たれた方は、是非参加してみてください。なお、次号では、セミナーの詳細について紹介します。エントリーの締切（2015/3/16）は、次号が発売される前なので、ご注意下さい。

【エントリーサイト】

<http://ficpi.org/current-training-courses/sead-2015/>

著者紹介

木本大介（きもと・だいすけ）

日本弁理士、GIP Tokyo所属。1977年神奈川県生まれ。2003年上智大学大学院理工学研究科電気電子工学修了。専門は通信、電気、ソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業（知財部）3年、特許事務所7年の経験を経て、2013年7月より現職。

<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>